

農研NOW

No.10

秋号

平成26年10月

畝表の生産効率に着目した 産地期待の星★

目次

ラボから新技術

湿地性カラー「熊本FC01・02」 P.2

褐毛和牛種雄牛「菊鶴ETI」 P.3

モモ「はつおとめ」 P.4

「涼風」

本県はいぐさの生産量全国第1位。国内生産量の約95%を誇っています。

「涼風」は、いぐさ農家からの熱い期待を受けて、当研究センターい業研究所(八代市)が約17年の歳月を経て育成した新品種です。(H25.10出願公表)

枯れにくいと、農家の補植の手間がかからず、労力の削減が可能になります。

また、長い茎の収穫量が多く、「ひのみどり」より茎が太く硬いため畝表の生産効率が高まり、農家収益の向上が期待できる“待望の新品種”です。

本県では、「ひのみどり産地強化対策事業」にて苗を増殖し、来年1月には農家へ苗の配布が始まります。



いぐさ新品種

すす かせ

「涼風」

来年1月に農家へ

ラボから新技術

「くまもと農業」の魅力を発信できる新品種

1

湿地性カラーの県育成品種 「熊本FC01」「熊本FC02」

「熊本FC01」 「熊本FC02」

当センター農産園芸研究所が平成10年から14年間かけて育成した新品種。

どちらも病気に強く、収量が多い。花の色が純白。

「熊本FC01」は、通常よりやや早い時期から収穫が可能になり、長い期間収穫できるのが特徴。

「熊本FC02」は、既存品種と花形が異っているのが特徴。

いずれも結婚式のブーケや様々なシーンでの活躍が期待され、平成24年8月に品種登録されました。

現在、種苗が県内の生産農家に配布されており、今年冬頃から市場に出回る予定。

昨年冬には、広く愛称が募集され、関係機関で構成する愛称選考委員会で審議されており、今年冬には決定し、発表されます。さあ、何に決まるのか、楽しみに。



熊本FC01



熊本FC02

熊本県は湧水が多く、それを活かした湿地性カラーの栽培は全国2位の生産量を有しています。

湿地性カラーの産地では、多くのほ場で発生している疫病対策として、病気に強い品種への転換が進められています。収量が少ないという欠点があります。

そのため、当センターでは病気に強いうえで、収量が多い2品種を育成しました。今回は、その新品種（「熊本FC01」・「熊本FC02」）の栽培特性について、ご紹介します。

1. 生育適温域

これまでの他の品種と比べて「熊本FC01」は適温域が広く、「熊本FC02」は高温域で生育します。

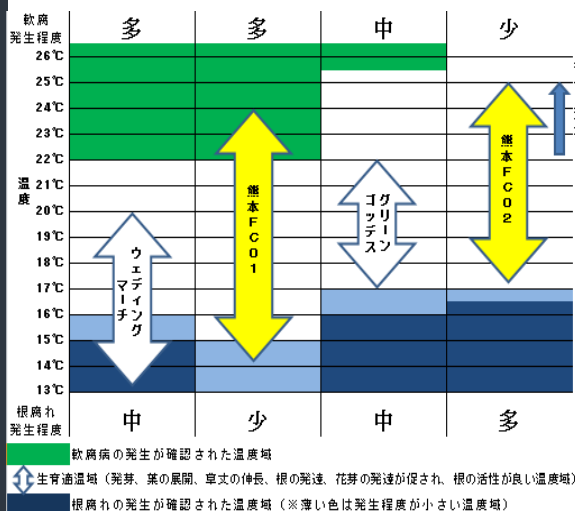


図1 品種毎の生育適温域

2. 耐病性

高温で発生する軟腐病の発生程度は、「ウエディングマーチ」に比べて「熊本FC01」は同程度で、「熊本FC02」は少ない。

また、低温で発生する根腐れの発生程度は、「ウエディングマーチ」に比べ、「熊本FC01」は少なく、「熊本FC02」は多い。

3. 根圏

「ウエディングマーチ」の作土層中心に対して、「熊本FC01」は鋤床の下まで、「熊本FC02」は作土層中心で太い根は鋤床の下に達します。

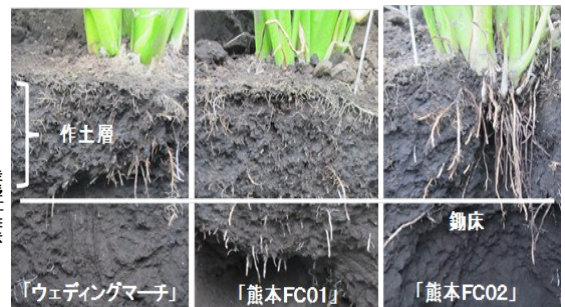


図2 品種毎の根圏



農産園芸研究所
花き研究室
工藤研究参事



技術の詳細はコチラへ <H26 農業の新しい技術>

農産園芸研究所 花き研究室 担当：工藤 ☎：096-248-6444



ラボから新技術

「くまもと農業」の魅力を発信できる新品種

2

褐毛和種種雄牛「菊鶴ETI」

本県で昔から多く飼われている「あか牛」と呼ばれる和牛・褐毛和種について、その牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しました。

1. 本牛の特徴

枝肉重量と1日当たりの増体量が極めて優れていることから、増体性の改良に有効です。

また、脂肪交雑はもちろん、ロース芯面積が極めて優れた質量兼備の種雄牛で、「菊光丸」の後継牛として期待される種雄牛です。



「菊鶴ETI」

2. 期待される効果

今後、「菊鶴ETI」の繁殖雌牛への交配により、低コストで高品質な肉牛の生産が期待されます。



産子の枝肉写真

形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
1日増体量	小さい							大きい	3.42
脂肪交雑	少ない							多い	2.60
ロース芯面積	小さい							大きい	4.18
枝肉重量	小さい							大きい	3.22
バラの厚さ	薄い							厚い	0.99

※SBV(標準化育種価): 遺伝的な個体の特徴を明確にするため、育種価(遺伝的能力)を標準化した数値



無人ヘリ

「空撮技術を利用した圃場管理技術」

カメラを搭載した無人ヘリを利用して、飼料畑を撮影・解析することで、ほ場の窒素肥よく度や生育状況・収穫適期の把握、収量予測等を行うための技術開発に取り組んでいます。

この技術を活用することで、余分な施肥が削減でき、低コストで環境に配慮した栽培が可能になります。また、収穫適期を判定する手間がかからず、省力的なほ場管理もできるようになります。(畜産研究所)

菊光丸

第三光丸

光武

ふくまる

なみふく☆

光重ET

第十三さかえ

あじさい

第十六光重

光重ET

第七さつき

第四みつつる

第三光丸

第三みつつる

畜産研究所

生産基礎技術研究室

安武研究主任



技術の詳細はコチラへ <H26 農業の新しい技術>

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/91213.pdf>



イベント情報 (10~12月)

●生産環境研究所

- ・10/8 <農業アカデミー>
ショウガの脱臭化メチル対策
- ・10/23<農業アカデミー>
多収米のバイロウンカ防除

●い業研究所

- ・10月中旬
熊本県い草製品品評会
審査及び表彰式

●果樹研究所

- ・11月上旬
果物セミナー
(尚綱大学収穫体験)

●球磨農業研究所

- ・11/27
研究成果発表会(球磨地
域農業活性化セミナー)

- ・12月中旬
球磨地方クワ冬期せん定
研修会

●畜産研究所

- ・11/27
畜産関係試験研究業績
発表会

●その他

- ・11/8,9
農業フェア(カントリーパーク)

詳しくは、各研究所にお問い合わせ
ください。



トンネルハウス栽培における モモ「はつおとめ」



本県のモモ栽培は、「はなよめ」「日川白鳳」といった早生品種が主体となっています。しかし、成熟期が梅雨の時期と重なるため、糖度の低下が問題となっています。

また、降雨を避けるために、樹上にビニルハウスの屋根をかける「トンネルハウス栽培」においても、この2品種に偏っており、摘果・収穫などの作業が集中しています。

そこで、現在、栽培の主流となっているこれらの品種よりも収穫期の早い極早生の優良品種「はつおとめ」について、その品種特性を明らかにしました。

1. 来歴

モモ「はつおとめ」は、福島県果樹試験場において、母：「倉方早生」×父：「ちよひめ」の交雑実生により育成された品種で、H15に 登録された品種です。

2. 品種の特徴

成熟日数が短く、「はなよめ」より2週間程度早く収穫期を迎えます。大きさは155gと「はなよめ」(211g)より少し小さいが、核割れ果が少なく、健全果率が高くなっています。果実の品質としては、着色がよく、糖度も高く食味が良いのが特徴です。

3. 管理上の注意点

成熟期間が短いため、小玉になりやすく、そのため、摘蕾や早期摘果が必須の作業となります。直射日光が当たると軽微な裂果がみられるため摘果の際は、葉に隠れる果実を残すように行います。

球磨農業研究所
中尾研究員
(現)東京事務所



技術の詳細はコチラへ <H26 農業研究成果情報>

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/91283.pdf>



農研NOW 秋号 平成26年10月



〒861-1113

熊本県合志市栄3801

tel 096-248-6411

fax 096-248-7039

本紙の内容に関するお問い合わせは、

企画調整部 情報課 まで

管理部
総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部
企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444
生産環境研究所
環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病虫害研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433
茶業研究所
096-282-6851
い業研究所
育種・栽培研究室
加工・機能性研究室
野菜栽培研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所
0967-32-1231
果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723
高原農業研究所
0967-22-1212
球磨農業研究所
0966-45-0470
天草農業研究所
0969-22-4224